

京都精華大学

2024年度 入学試験問題

| 座席番号 |
|------|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

【小論文】(2月4日)

時間 14時30分～16時

【注意】

- 一、試験監督者の指示があるまで、問題冊子や筆記用具に触れてはいけません。
- 二、試験中の使用が認められたもの以外は、すべてカバンに収納すること。使用用具は黒芯の鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り(電動式・大型のもの・ハンドル付きのものは不可、鉛筆使用者のみ)とし、それ以外の使用は認めません。
- 三、携帯電話、スマートフォン、イヤホン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダ ーなどの電子機器類は、必ず電源を切ってから、カバンに収納すること。
- 四、試験開始の合図により、試験を始めてください。
- 五、解答は、すべて「解答用紙」の所定の欄に記入すること。
- 六、試験終了の合図とともに直ちに筆記用具を置くこと。試験終了後に解答用紙や筆記用具に触れた場合は、不正行為とみなすことがあります。試験監督者が指示するまで、絶対に席を立ってはいけません。
- 七、問題冊子および解答用紙は、試験終了後にすべて回収するので、持ち帰ってはいけません。

【問題】

次の文章は、村上靖彦著『客観性の落とし穴』（ちくまプリマー新書、二〇二三年）の一部です（出題の都合上、省略した箇所があります）。

文章を読んで、それに続く設問に答えてください。

大学一、二年生に向けた大人数の授業では、私が医療現場や貧困地区の子育て支援の現場で行ってきたインタビューを題材として用いることが多い。そうしたとき、学生から次のような質問を受けることがある。

「先生の言っていることに客観的な妥当性はあるのですか？」

私の研究は、困窮した当事者や彼らをサポートする支援者の語りを一人ずつ細かく分析するものであり、数値による証拠づけがない。そのため学生が客観性に欠けると感じるのは自然なことだ。一方で、学生と接していると、客観性と数値をそんなに信用して大丈夫なのだろうかと思うことがある。「客観性」「数値的なエビデンス」は、現代の社会では真理とみなされているが、客観的なデータでなかったとしても意味がある事象はあるはずだ。

数値に過大な価値を見出し^{みいだ}ていくと、社会はどうなっていくだろうか。客観性だけに価値をおいたときには、一人ひとりの経験が顧みられなくなるのではないか。そのような思いが湧いたことが本書執筆の動機である。

とりわけ気になるのは、数値に重きがおかれた結果、今の社会では比較と競争が激しくなったのではないか、ということだ。

先にもあげた私の授業では、対人援助職のみなさん、そして身体障害の当事者、薬物依存から刑務所を経験した方、差別を受けた方といった人たちをゲストにお呼びしている。大学に入ったばかりの若い学生を前にして、生命とは何か、死を看取^{みと}るとは、あるいは差別や障害はどのような現代の日本において問題なのかを考えてもらうようにしている。そこで学生から次のような質問を受けることがある。

「誰でも幸せになる権利があると言うが、障害者は不幸だと思う」

そもそも障害とはなんだろうか。しばしば **impairment** が器質的な欠損としての障害であ

るのに対して *disability* は環境が整っていないがためにできないことが生じてしまう障害を指す。

地方で生活している人が、自家用車を持たずに不便であるときに「障害」という言葉は使わないだろう。ところがエレベーターがないと上の階に上れない車いすユーザーは「障害者」と呼ばれる。エレベーターという環境さえ整えば不便は生じないはずだ。*disability* とはこのような事態である。環境の整備によって、ある場面では障害が生まれ、ある場面では生まれない。あるいは、ろうの人たちは、ろう者のグループのなかでコミュニケーションを取るときには不自由はない。ところが聴者の社会のなかに入った途端に「聴覚障害者」として不便を被り場合によっては差別を受ける。つまり *disability* としての障害から考えたときには、環境を整えるか整えないかという社会の側の姿勢が問われるのだ。

もし「障害者は不幸だ」としたら、それは社会の側の準備の問題である。さらには、幸せ／不幸せの基準をどこに置くかを他人が判断できるのだろうかという疑問も残る。

貧困について議論していた授業で、生活保護をめぐるこんなコメントが来たことがある。

「働く意思がない人を税金で救済するのはおかしい」

私たちは汗水垂らして働きながらわずかな収入を削って税金を納めている。たしかに苦勞している私が払った税金で「働く意思がない人」を助けるというのは腹立たしいかもしれない。

でも、もしかすると、「働く意思をもたない」人にはなにかの事情があるのかもしれない。フィールドワークのなかで、うつ病で朝起きることができないひとり親家庭に出会うことがあった。その母親は、パートナーのDVから子どもを連れて逃げてきて、暴力の後遺症でうつ病に苦しんでいた。

精神障害や発達障害といった事情ゆえに、安心して働く環境を手にすることができないならば、それは社会の側が排除しているのかもしれない。働きたいと一度は思ったが、働けるチャンスがないため働くことをあきらめる人もいる。社会のほうで、働きやすい環境を作ることを困難にしているのだとすると、社会が生活を支えることは自然なことだろう。

おそらく学生たちのコメントは私たちの社会の代表的な意見でもあり、私自身もかつては同じように考えていた。学生が、社会的に弱い立場に追いやられた人に厳しいのは、そもそも社会のなかにそのような厳しい視線が遍在しているからだ。そして、その言葉のなかに社会をどのように考えていくとよいのか、どう行動したら私たち自身が生きやすくなるのかのヒ

ントもある。そこで、本書では、私たち自身を苦しめている発想の原因を、数値と客観性への過度の信仰のなかに探る。

一見すると、客観性を重視する傾向と、社会の弱い立場の人に厳しくあたる傾向には、直接の関係はなさそうだが。しかし、両者には数字によって支配された世界のなかで人間が序列化されるという共通の根っこがある。そして序列化されたときに幸せになれる人は実のところはほとんどいない。勝ち組は少数であるし、勝ち残ったと思っっている人もつねに競争に脅かされて不安だからだ。

さらには、こういった社会への厳しい視線は、学生自身を苦しめている。なぜなら、自身自身を数字に縛り付けて競争を強いるからである。かつて私もそうだった。競争することが社会のなかで大事なことなのだと思こんでいた。私が教える学生たちの多くも、競争へと駆り立てられ自分で自分を苦しめている。この数字と競争への強迫観念から解放されることで私自身も楽になった。

とはいえ数字を用いる科学の営みを否定したいわけではない。数字に基づく客観的な根拠はさまざまな点で有効であるし、それによって説明される事象が多いことは承知している。それでも、数字だけが優先されて、生活が完全に数字に支配されてしまうような社会のあり方に疑問があるのだ。数字への素朴な信仰、あるいは数値化できないはずのものを数字へと置き換えようとする傾向を問いたい。

(中略)

痛みの客観化

客観性への過剰な信頼について、私が違和を感じ始めたのは、研究のなかで医療と関わるようになってからである。医療は客観性を非常に重んじる分野であり、客観的なデータの積み重ねから診断や治療法を改良していくのだが、がん看護を専門としている看護師にインタビューしたときに次のような場面があった。

春木さん とても印象的な膀胱がんの末期の患者さんがいて、私はまだ二年目の看護師だったんですけど、先輩の看護師さんが、「あの人、痛そうじゃないよね」っていう話をするんですけど、私が患者さんのベッドサイドに行くと、「痛い」っていうんですよね。「痛い」って言うてるから「何とかしてあげたい」と思うんだけど、まあ先生と相談しているいると対処するけれども、また違うスタッフになると、痛み止めが使われないまま来ていて、

私、また受け持ちで行くと、「痛い」って言うんですよ。だから、「あれ、なんでこんなことになっちゃうのかな」と思ってる。でも「あの人は痛そうじゃないから」っていう、客観的な先輩ナースの感じ方と、「でも本人が「痛い」って言うてる以上、痛いよね。なんかしなきゃいけないんじゃないか」って思う、なんかそのなんか違いみたいなのがまずあって。

で、ドクターに相談しても、ひどい先生なんかだと「気のせい」みたいなこと言ったりするわけですよ。「あの、痛いって言うてるけど、そんなに痛そうじゃないよね」とか「気のせいじゃない？」みたいなこと言うときに、「どうしてそうなっちゃうのかな」っていう感じがあって。

患者の「痛い」という訴えが、検査データを見て客観を装う医療者の判断によって無視される。このように客観性の名のもとに患者本人の声がないがしろにされる場面は、医療現場の取材のなかでときどき見聞きするものである。

一人ひとり個別の経験の価値が下がったとき、経験の意味はどのようなものになるだろうか。

(中略)

チャップリンの『モダン・タイムス』

数字が重要な価値をもつ社会は、数字によって人間を序列化する。単に数値で測られるだけではない。たとえば会社では利益をどれだけ挙げたのが基準になり、営業成績の良い会社員が評価される。数値が支配する社会では、人間を役に立つか立たないかで切り分けられる。〔…〕

アメリカの喜劇役者チャールズ・チャップリン（一八八九—一九七七）が監督・主演した『モダン・タイムス』（一九三六）というコメディ映画がある。チャップリンが演ずる工場労働者の主人公は、機械と資本家に縛り付けられながら同時にコミカルに工場のラインを乱し、上司をはぐらかすことで抗う。映画の前半で、チャップリンは人間が工場や機械に管理される様子を描いた。チャップリンはベルトコンベアに乗って歯車に巻き込まれながら文字通りに歯車と一体化する一方、社長は社長室でジグソーパズルで暇をつぶしながら、テレビ画面を通して労働者の働きぶりを一望に監視するのである。

一九二九年の世界大恐慌のあとに作られた『モダン・タイムス』では、失業者のデモや労働

者のストライキといった、困難を抱えた労働者の反抗が映し出されている。ヒロインの若い女性は養護施設に收容されそうになったところを逃げた人物であり、困窮した子どもたちが置かれていた状況もうかがえる。デパートの警備員や酒場でのウエイトレスや踊り子といった職業を転々としながら、どたばたとトラブルを起こしつつ、衣食住と自由のために格闘している。工場のなかで機械の歯車になることに抵抗しているのである。

『モダン・タイムス』は経済的な原理が優先するなかで一人ひとりの顔が見えなくなる社会を描いてもいる。映画冒頭、工場労働者が集団で仕事に向かう場面では、羊の群れのカットのあと顔が見えない労働者たちの群れが映し出される。労働者たちはほとんど同じ服装で同じ動作をするために一人ひとりの区別がつかない。

生産性による切り分け

イギリスの哲学者ジェレミー・ベンサム（一七四八—一八三二）は「最大多数の最大幸福」という功利主義といわれる議論を展開した。この主張は、ジョン・スチュアート・ミル（一八〇六—一八七三）からヘンリー・シジウィック（一八三八—一九〇〇）に受け継がれた。幸福が社会的な善の原理であると主張する前提として、幸福が数量化できるということ、最大多数の人（＝マジョリティの社会）にとって役に立つということが重要になる。功利主義によって「多数」と「最大」という数の基準が価値に導入されたのである。ミルはいう。

幸福が善であること、それぞれの人の幸福はそれぞれの人にとって善であること、それゆえ、社会全般の幸福がすべての人々からなる全体にとって善である（以下略）。

幸福が善でありうることは私も否定しない。しかし「社会全体の幸福がすべての人々からなる全体にとって善」とミルがいうとき、排除されたり抑圧されたりする少数の人への配慮が欠けるのではないか、という点が気になるのだ。「社会全体」という顔を持たないものが主語になっているため、全体を優先したときにはいつのまにか消されてしまう人が生まれるのではないかという点にひつかかるのである。

社会福祉学者の藤井渉によると、日本の障害者政策は、第二次世界大戦中の傷痍軍人しょういの支援制度の影響を受けているという。国家に奉仕して戦争で負傷した「役立った人」と、戦争の「役に立たなかった人」という切り分けが初めからあったというのだ。

戦争の役に立つかどうかという切り分けは、戦後になって「経済的に役に立つかどうか」に変化している。日本の主戦場は軍事から経済に移ったのだ。たとえば現在の障害者の支援制

度は就労がゴールになっている。障害者がサポートを受ける場合も「就労継続支援A型、B型」というように、名称自体に「就労して納税者になる」ことが目的であると明記されているのだ。このように、障害者も労働へと駆り出される。

経済的に役に立つかどうか、それは生産性という言葉に置き換えることができる。個人の生産「性」は、他の人との比較において決まる。自分のために作るのなら「生産性」は問われない。そして、その比較を誰がするのかというと、人ではなく組織や国家である。つまり人間の生産性が問われるときの主体は、あくまで組織・国家なのだ。お互いの顔が見えない巨大な社会では、組織の視点でものごとが決まる。たとえば、テストの点数や年収で他人と自分を比べているときも、自分が誰かと競っているように見えて、実は学校や国家といった顔のない組織によって品定めされているのだ。

【設問1】

筆者は文中で、数値や客観性が重視されることによって社会に生じた帰結についていくつか具体的に述べている。筆者が考える、それらの帰結について一五〇字以内でまとめてください。

【設問2】

筆者が看護師（春木さん）にインタビューしたときに、看護師は、傍線部「**」**どうしてそう なっちゃうのかな**」** っていう感じがあつて」と語っているが、その「感じ」とは、どのような感じか。「客観的」（あるいは「客観性」というキーワードを用いて、一〇〇字以内で説明してください）。

【設問3】

筆者が文中で説明している、数値に過大な価値を見出し、客観性だけに価値をおく社会の傾向について、あなたはどのように考えますか。あなたの考えを六〇〇字以内で述べてください。